



町議会報告

生まれ変わった議会構成

さる八月五日に執行された町議選で当選した新議員による初議会ともいべき、本年度第十回の町議会臨時会は、一日に招集され、正副議長選挙、常任委員の選任など、新しい議会の骨格となる人事を中心として、一日、四日の両日に行なわれて審議がくりひろげられた。

再開された四日は、常任委員のふりあてをめぐって、産業建設委員会に各議員の希望が集中したため、かなりの時間を費す場面もあったが、総務財政八人、産業建設十人、文教厚生八人の構成で、各常任委員の選任を終え、総務財政から逐次委員長の選挙にはいり、

常任委員の顔ぶれ

一票 馬場 卜榊  
一票 田中 金造  
一票 内山 常治郎  
一票 田中 三郎  
一票 田中 与三郎  
一票 平野 圭二  
一票 水品 正一郎  
一票 蔵品 茂雄  
一票 滋野 一郎  
一票 江口 初太郎  
一票 田村 才一郎  
一票 保坂 長雄  
一票 内山 平野・田村の各氏が、それぞれ委員長のポストを得た。また、副委員長には次の三氏が

和久井議長

一日は、まず馬場臨時議長より議長選挙の件が提出され、原則どおり単記無記名投票によって選挙が行なわれたが、開票の結果は次のとおりで、和久井精一氏が絶対多数を得て新議長に選出された。

南雲副議長

一票 馬場 卜榊  
一票 田中 金造  
一票 内山 常治郎  
一票 田中 三郎  
一票 田中 与三郎  
一票 平野 圭二  
一票 水品 正一郎  
一票 蔵品 茂雄  
一票 滋野 一郎  
一票 江口 初太郎  
一票 田村 才一郎  
一票 保坂 長雄  
一票 内山 平野・田村の各氏が、それぞれ委員長のポストを得た。また、副委員長には次の三氏が

総務

田村才一郎  
保坂長雄  
内山平野・田村の各氏が、それぞれ委員長のポストを得た。また、副委員長には次の三氏が

産業

田村才一郎  
保坂長雄  
内山平野・田村の各氏が、それぞれ委員長のポストを得た。また、副委員長には次の三氏が

選出された。

総務 九票 田中与三郎  
産業 十票 江口初太郎  
文教 十六票 黒島豊二  
なお、各常任委員会の顔ぶれは次のとおりである。

総務財政委員 八人  
内山常治郎・田中三郎・和田光興・中村昌平・和久井精一・小林与作・田中金造・数藤孝平  
産業建設委員 十人  
平野圭二・江口初太郎・齊木定太郎・水品正一郎・須藤亮助・蔵品茂雄・滋野一郎・南雲章・市川富二・山家音平  
文教厚生委員 八人  
田村才一郎・黒島豊二・小林伝司・保坂長雄・馬場卜榊・押木二吉・丸山欽一郎・登坂敬恒

三常任委員会は

役場機構の改革  
にあわせて

正副議長および各常任委員長の任期は一年という申し合わせになつてゐるが、新しい議会構成の眼目となつた川西町議会常任委員会及び特別委員会条例(昭三一・条例第二〇号)の一部改正は、さきに町役場事務機構の改革が行なわれた結果、現行常任委員会の組織及び所管との間に著しいズレが生じ、委員会の審査能率を阻害するおそれがあるので、この際、常任委員会の構成を根本的に再編成するとともに、現行条例施行後すでに五年を経過しているため、過去の実績と地方議会制度の推移にかんがみ、全文にわたつて再検討を加え、標準条例を基礎として実情

農業委員に

小林(伝)氏  
その他この議会では次の人事が決定した。

◎農業委員会委員(学識経験者)として、小林伝司氏を推せん。  
◎高柳町、川西町、松代町学校組合議員に、和久井精一、小林与作の二氏を選出。  
◎十日町市ほか二カ町村伝染病舎組合議員の選挙で、和久井精一、田中三郎の両氏が当選。  
◎昭和三十六年度における町の臨時出納検査に立ち会ひする議員四人を次のとおり互選。  
蔵品 茂雄 田中 金造  
馬場 卜榊 丸山欽一郎

一億六千万の決算を認定

軌道に乗つてきた町財政  
いわゆる、前議員にとつて最後の議会となつた第九回町議会臨時会は八月二十五日に開催され、歳入一億六千六百二十四万一千七百七十二円、歳出一億六千六百七十二万八千八百五十一円におよぶ昭和三十五年度の決算を認定した。

わたしの抱負

意欲激発議員  
◎学校教育の総合研究  
◎統合などにより冗費の節約  
◎へき地教育の振興  
◎県道、とくに地域農・林道の整備拡充をはかる。  
◎産業開発を促進して離農対策をはかりたい。  
◎大事業ももちろんけつこうだが、補修事業の完全実施をしたい。  
◎教員住宅の雨もり、飲料水の整備、除雪作業など、意欲激発の了解を得て本身にまわらせていただきました。

おわび

前号一面町議選の記事中「当選者の顔ぶれ」ところで、山家音平、現とあるのは新の誤りでした。訂正しておわびいたします。

切り返して今日あらしめた功績は

高く評価されてしかるべきである。決算の認定にあつては全議員に数日前から決算書が配布され、項目ごとに、ごまかい事前審査がなされていた。

なお、この日は全議員が顔をそろえて活発な意見が述べられたあと、四年間の職責を全うされたことについて町長から感謝の言葉があり、小林前議長が代表して惜別の辞を述べた。なぜか、いままつのさびしさがたまたまた議会でもあつたといえる。

会計の決算額は次のとおり。

◎一般会計  
歳入 一一二、九二一、九七七円  
歳出 一一〇、四四〇、三三六円  
差引残高 二、四八一、六六一円  
◎国 保  
歳入 一一三、七二七、八六六円  
歳出 一〇、六九九、二四二円  
差引残高 二、〇二八、六二四円  
◎福祉施設  
歳入 八、九四四、三三三円  
歳出 八、九四二、四三七円  
差引残高 一、八九五円  
◎千手診療所  
歳入 七、三四〇、三九四円  
歳出 七、三三九、六五三円  
差引残高 七四一元  
◎学校建築  
歳入 八、九五四、八九六円  
歳出 八、九五四、八九六円  
◎耕地災害復旧  
歳入 五、三三二、三〇七円



# 話し合いの精神と壁

(真農林部発行「幹部研修の手びき集」より)

「話し合い」ということはよく聞くことである。これは民主的な人間関係が、話し合いによってのみ成立するという事実に基づいたときからである。だが、このことは流行ほど実際には行なわれていないようである。それは話し合いの精神なり、技術を理解しなかり、これをきまただげる大きな壁があるからである。

## I 話し合いの精神

(1) 話し合いとは何か？ 定義をくだしてみよう。

- ・自分の意志を相手に伝えるため
- ・お互いに妥協し、協力するため
- ・他人に対しては話をかけると、はねかえりがくる。これははねかえりによって自分の考えを深め、高めてゆく自己教育の方法である。
- ・共通の理解をつくらせてゆくとする努力である。
- ・お互いに出しあった定義についてどれが適切か話し合ってみよう
- ・日本人はよく「しゃべる」。だが「話し合う」ことのちがいはどこにあるのだろうか。

話し合い	しやべりあ しい
考えるが らなる	頭を 使わ なく よ
全身全 運動	口の 先の リエ ー
人が向 上する	人が向 上し ない

●恋人同志や夫婦の間での話し合いを「かたらい」といふことがある。「かたらい」と「話し合い」のちがいは何だろうか。

話し合い	かたらい
きびしさがあ る	甘さがある
冷静さがある	情熱がある
判断が理的	共通の 点をは きけり る
考え方 の訓練	感情の 純化が つ

## (2) 話し合いの効果

話し合いが自分の考え方を育てる自己教育の方法だとすると、このことによってどんな効果があるか。効果は、こゝにわかれていて、自由な自信にみちた表情があらわれくる。

- ・簡単にかんどころをついた美しい日本語が身につく。
- ・相手の立場に立って考えるという社会性が身につく。
- ・自己を確立し主体的な独立の人

●グループにはいつて話し合いの訓練を経た人と、話し合いにできない人との発言をきいて、どこにどうちがいがあるか考察してみよう。

## (3) 話し合いと民主主義

民主主義は話し合いによって育つというが、それはどういう意味からであろうか。

●話し合いが、民主主義の精神を基礎にもっているという点をひろいあげてみよう。

- ・話し合いは真理の相対性を前提としている。
- ・自分の考え方が絶対に正しいと確信してゆるがぬならば、もう話し合いの余地はない。
- ・物事を断定的におしつけ的に話すというものはいろいろな意見をもっているということ、その意見にそれ相対の理由があるのだというところを発見するのが、民主主義にとつてたいせつなことである
- ・人間平等への確信がなければ、だれといつても話し合うということができない。

●親子の話し合いがほんどうに行なわれ得るようになるのは、子どもが成人し一人前になったときだという人がいる。どうしてだろうか。

●このことは子どもが成長するまで不可能ということだろうか。

## II 話し合いの壁

話し合いが民主主義の基礎であるということがわかった。だが、現実にはこれをばは壁がある。

どんな場合に自分の考えを公然とほつきり話すことができないか話し合いをはは壁を分析してみよう。

- ・身分、服装、ことはつかいなど自分とへだたりのある場合、このうちことばの断層は一番抵抗がある。
- ・ちょっとのすきもないような人は話しにくい。
- ・本音をほくと人ににくまれるから。
- ・自分が意見がない場合。
- ・内向性が強くて勇気がない。

●だが話し合いのできない原因は性別、職業別、地位別、教養別によって、厳密にいうならばひとりひとりみんなちがった原因があるようだ。ここではその原因を遠慮なしにはき出してみよう。

## III グループは話し合いの場である

話し合いのしにくい人でも、自由なふんいきのみちたグループでは気軽に話せるものである。グループの活動は権力の平等な分与を原則とし、等質の権力者をつくりあげようという努力であるからである。

## 木落に 婦人学級

木落に婦人学級が開設された。六月以来、田口トウさん(樺地区婦人会長)や田口トヨさん(木落婦人会長)らのきもいりて「樺地区に学習したい」というおあき

んたちが集まり、教育委員会に開設を申請してこのほど実現のはこびになったもの。この学級には寺ヶ崎からも参加し、現在の学級生は三十六名、学級長には田口 律さんが決まった。

ことしはまず仲間づくりを重点をおき、「明るく健康」をめざして一般教養を学ぶことになっており、町や部落からも大きな期待がよせられている。

木落婦人学級の発足により、町教育委員会が開設する婦人学級は赤岩(一三七名)、上野(二二六名)、田戸(三三三名)の三学級を合わせると四学級、三編学級生は四百二十名になった。ことしの目標であった四学級は、これで達成となり開設されたことになる。

先兵はいくつかの反響があまりました。「選挙区を知らない当町で、選良がいかなる候補をもつて議席にのぞんでいるか、知りたい念願であったが、興味深く読み、今後各議員がその備後に向っていかん努力するかに見守るのが、一票を投じたわれわれのつとめであると思ふ」との声もありました。また、「現議員の任期は八月三十一日までであり、当選したとはいえず正式の議員の資格をもち、二十、二十六歳と定めた選挙権の不勉強ぞ」とお叱りのことばもありました。不勉強は申しわけなく思いますが、四年間、われわれの代表として、町政に参与する偉業を聞ききたいといふ時勢を感ずるにほろびた企鵝が度々をうたうことは最後

## 編集後記

先兵はいくつかの反響があまりました。「選挙区を知らない当町で、選良がいかなる候補をもつて議席にのぞんでいるか、知りたい念願であったが、興味深く読み、今後各議員がその備後に向っていかん努力するかに見守るのが、一票を投じたわれわれのつとめであると思ふ」との声もありました。また、「現議員の任期は八月三十一日までであり、当選したとはいえず正式の議員の資格をもち、二十、二十六歳と定めた選挙権の不勉強ぞ」とお叱りのことばもありました。不勉強は申しわけなく思いますが、四年間、われわれの代表として、町政に参与する偉業を聞ききたいといふ時勢を感ずるにほろびた企鵝が度々をうたうことは最後



かわし  
非壇  
太田 白南風選  
小白倉 江口 秀隆  
夏雲へ大クレインの動きたる  
こんべきの空に湧いている夏雲  
に工場のはげまがゆくりと響る  
「動きたる」句が生きた。

朝顔のあざ咲く響数え見て  
毎朝大輪の朝顔が咲く。あすは  
くつほみを数えているとるに片  
精の機が見える。作者のすなわ  
をいたたく。

雪の降土手に學生の子の遊ぶ  
土手の夏草に並んでいるのは、小  
學生が。頭上の夏草がまぶしい。

とれ秋がきました。黄金もたわ  
わな田の面を見つめながら、これ  
までへの努力に対し、敬意と喜び  
を表するとともに強いほのめい  
三折らずにはおられせん。